

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和３年４月１日改正
(令和３年４月１日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：下呂市立きたこども園	種別：認可こども園
代表者氏名：小 林 桂 子	定員（利用人数）： １１０（８８）名
所在地：岐阜県下呂市萩原町野上７６８番地	
TEL：０５７６－５５－０３２２	ホームページ：http://www.sun-hagiwara.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成２７年４月１日	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人サン・はぎわら	
職員数	常勤職員： ２３ 名 非常勤職員 名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 １８ 名
	栄養士 １ 名
	調理員 ３ 名
	看護師 １ 名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
保育室７室 遊戯室１室 病児一時対応室１室	
事務室 調理室 給食室	

③理念・基本方針（※転載）

保育理念

NPO法人サン・はぎわらの願い「地域の人材やネットワークを活かし、地域に暮らす人々の手で、地域の子どもの健やかな成長をめざした子育て支援の拡充」を受け、地域のこども園として、地域や保護者の願いを受け止め、恵まれた自然・地域の人々と触れ合いながら、子ども達のために最善を尽くすこども園をめざします。

保育方針

「恵まれた環境の中で、子ども達の健全な心と体の成長をめざす保育」そのために、

- ・「食・遊・眠」を生活の基本として、個性を大切にする。
- ・遊びや集団生活を通して、思いやりや協調性を育てる。
- ・地域、保護者との連携を深め、豊かな体験を通して生きる力を育てる。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

・今年で7年目になる地域の自然環境を活かした「森のようちえん」での様々な自然体験活動を実践している。また、秋みつけ、そり滑り等を体験し、卒園記念植樹を行っている。昨年度は、園児たちによる「お散歩マップ」を作成し、今年度は図鑑づくりに挑戦している。

・農園活動に力を入れている。例えば、さつまいも、ポップコーン用トウモロコシを作り、草取りや水やりを行いながら、野菜の成長を観察したり、収穫を行い、焼き芋やクッキングを大切にしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月20日（契約日）～ 令和5年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成30年度）

⑥総評

◇総 評

サン・はぎわらの「サン」にはいろいろな意味が込められているが、やはり、市民の参加・参画の「サン」の実践がここに展開されているという印象を持った。そして、格調高く理念を掲げ、園の運営にあたっている姿勢に清々しさを感じ取れた。今回、この園を訪れて、調査する・されるという固定的な立場の関係性で評価が行われるのではなく、話し合いの相互関係の中から、ともに気づきが生まれ、質の向上につながるものとの思いを強くしたものである。

◇特に評価の高い点

＜地域の人材を活用し、地域との交流を活かし、地域との深いつながりがある。＞

法人の願いである「地域の人材やネットワークを活かし、地域に暮らす人々の手で子育て支援を拡充する」ために地域の園として地域の人々の協力を得ながら保育事業が行われている。また、「保育の全体的な計画」の中に、地域との関わりの方針を示し、積極的に関わろうと取り組んでいる。今年度はコロナ禍により、地域交流の計画が実行できない状況であったが、その中で、就学を控えた年長児と就学先の小学校見学は全員で行い、交流を図る事ができている。

＜地域の子育て支援の拠点としての役割を担っている。＞

地域の子どもを地域で育てるという思いを地域のNPOに参加する多様なメンバーが活動に結実させ、地域の子どもたちの活動を支援している。地域の山に子どもたちの遊びの森を整備している他、子ども園もまた、この視線の下に安心して、園外での活動の場を広げ、山へ、高齢者施設へと子どもたちの育つ、多様な大人たちとの関係に耕され、豊かな人的、自然的体験という財産の恵みに育ち合っている。

<職員と保護者との信頼関係が構築されている。>

管理職を含む職員相互の信頼関係や園と保護者との信頼関係が随所に見られる。園長の方針の下に職員が保護者に常に声かけする等、丁寧な対応をしており、保護者の信頼を得ている。何でも相談に応じてもらえる安心感がある。また、園長がすべての会議に参加する事で、職員の様子だけでなく、子どもや保護者の状況を把握し、相談やアドバイスを適切に行っている。信頼関係があればこそ、職員が力を発揮する事ができ、決め細やかな部分にも意識が向けられている。

<衛生、生活環境に配慮が行き届いている>

昨今のコロナ禍に対して、生活環境の衛生上の配慮が施設内各所になされている。また、空気感染を防ぐための換気が随時行われている。これらのことを徹底するために掲示物により注意喚起が行われている。

<正面玄関のスペースが有効活用されている>

正面玄関の空きスペースが、園児、保護者が絵本をゆっくり読むことができる場所として活用されている。また、季節の風物詩の飾りつけにより、園内の雰囲気明るく感じる。さらに、正面玄関の空きスペースに園の自己評価等の資料が掲示されており、情報共有の姿勢が感じられる。

◇改善を求められる点

<事業計画の保護者等への周知について説明機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。>

事業計画の保護者等への周知について、今年度は、コロナ禍の影響で、事業計画全体について、わかりやすく説明する機会の確保が困難な状況にある。今後とも、状況を見ながら、機会拡充に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、保育のあり方や園の運営全般について見直すよい機会となりました。評価では、良い点や改善すべき点などにつきましてご指摘をいただきました。今後、改善すべきと指摘された点については、継続的に改善に向けた取り組みを行うとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努めることで、今後、多様化する地域の子育て支援ニーズに対応した支援の提供に努めていきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。